

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 5 区分
 【発行日】平成30年5月17日 (2018.5.17)

【公開番号】特開2017-30705(P2017-30705A)
 【公開日】平成29年2月9日 (2017.2.9)
 【年通号数】公開・登録公報2017-006
 【出願番号】特願2015-156076(P2015-156076)
 【国際特許分類】

B 6 2 K 11/04 (2006.01)

B 6 2 K 25/20 (2006.01)

【 F I 】

B 6 2 K 11/04 C

B 6 2 K 25/20

【手続補正書】
 【提出日】平成30年3月27日 (2018.3.27)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 8
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 8】

ブラケット 3 2 の頂部に、車幅方向に延びるスイングアーム側支持部材 3 4 が、溶接により固着されている。つまり、スイングアーム側支持部材 3 4 は、ブラケット 3 2 を介してスイングアーム 1 2 に取り付けられている。スイングアーム側支持部材 3 4 は、円筒状のパイプからなり、車幅方向の長さは、ブラケット 3 2 の上面 3 2 e とほぼ同じである。ブラケット 3 2 をこのような台形状とすることで、長い下面 3 2 d でガセット 3 0 を車幅方向に均一に補強すると共に、上面 3 2 e を短くして軽量化を達成できる。スイングアーム側支持部材 3 4 の一端部、本実施形態では右端部 3 4 a に、第 2 ナット 5 6 が溶接により取り付けられている。このスイングアーム側支持部材 3 4 の右端部 3 4 a に、後輪懸架装置 2 2 の下端部 2 2 b が回転自在に支持されている。後輪懸架装置 2 2 の取付構造は後述する。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 3 2
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 3 2】

つぎに、図 9 を用いて、後輪懸架装置 2 2 の下端部 2 2 b の取付構造を説明する。後輪懸架装置 2 2 の下端部 2 2 b の取付構造も、上端部 2 2 a (図 8) の取付構造と同じである。つまり、後輪懸架装置 2 2 の下端部 2 2 b の第 2 挿通孔 4 8 に、防振型の第 2 カラー 5 0 を挿入する。つづいて、右側方から、第 2 ボルト 5 2 を第 2 ワッシャ 5 4 および第 2 カラー 5 0 の中空部 5 0 a の順に挿通し、スイングアーム側支持部材 3 4 の右端部 3 4 a に取り付けられた第 2 ナット 5 6 に締め付ける。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 3 3
 【補正方法】変更
 【補正の内容】

【 0 0 3 3 】

これにより、第 2 カラー 5 0 の内管 5 1 の右端部 5 0 b が、第 2 ワッシャ 5 4 を介して第 2 ボルト 5 2 の頭部 5 2 a に当接し、第 2 カラー 5 0 の内管 5 1 の左端部 5 0 c が第 2 ナット 5 6 に当接する。つまり、第 2 ボルト 5 2 は、後輪懸架装置 2 2 の下端部 2 2 b の挿通孔 4 8 およびパイプ状のスイングアーム側支持部材 3 4 の中空部を貫通する。この第 2 ボルト 5 2 と、第 2 ボルト 5 2 の首下 5 2 b に挿入された第 2 カラー 5 0 と、第 2 ボルト 5 2 の先端部に螺合された第 2 ナット 5 6 とによって、後輪懸架装置 2 2 の下端部 2 2 b が回転自在に支持されている。

【 手 続 補 正 4 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 3 4

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 3 4 】

図 8 , 9 では、車体側支持部材 2 6 およびスイングアーム側支持部材 3 4 の各右端部 2 6 a , 3 4 a に、第 1 および第 2 ナット 4 6 , 5 6 を取り付け、第 1 および第 2 ボルト 4 2 , 5 2 を用いて後輪懸架装置 2 2 を支持しているが、これに代えて、車体側支持部材 2 6 およびスイングアーム側支持部材 3 4 の各右端部 2 6 a , 3 4 a に、右側方に突出するボルト（ねじ体）を設け、後輪懸架装置 2 2 の上下端部 2 2 a 、 2 2 b の第 1 および第 2 挿通孔 3 8 , 4 8 にボルトを挿通し、外側方からナットを締め付けることで、後輪懸架装置 2 2 を支持するようにしてもよい。

【 手 続 補 正 5 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 4 5

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 4 5 】

本発明は、以上の実施形態に限定されるものでなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲内で、種々の追加、変更または削除が可能である。例えば、上記実施形態では、単一のバックボーン 2 5 からなるメインフレーム 1 を備えた車体フレーム F R について説明した、車体フレーム F R の構造はこれに限定されない。また、支持台 2 4 の位置、形状は実施形態のものに限定されない。さらに、後輪懸架装置 2 2 は車体の左側方にオフセット配置されてもよい。